

大事協だより

大島地区公立小・中学校
事務職員協会 研修部
第47号
2014年12月19日発行

<各地区からの便り>

今回の原稿は①伊仙町②大和村③龍郷町④奄美市笠利ブロックから届きました。奄美市笠利ブロックからは支援室だより「シャリバイ」も届きました。

ありがとうございました。

伊仙町小中学校事務職員研修会の活動と紹介 伊仙町立伊仙中学校 宿里 洋平

伊仙町小中学校事務職員研修会の構成員は総勢9名、その内正規職員6名、再任用1名、臨時的任用職員2名で構成しています。今の学校が初任校という新米事務職員が半数以上ですが、それをうまくリードしてくれる先輩職員を中心に職務をこなしています。勤務する伊仙町は、共同実施の執務室の窓から散歩をする牛や繋がれた山羊が見えるなど自然豊かでのんびりとした良い雰囲気のある町です。

研修会は年8回で計画、学期に1回は担当校で開催し、その時には担当校の職員が好きなテーマで個人研究レポートを発表しています。今年度はすでに2回発表されていて、「コンピューターウィルスの恐怖とその対策」「高齢化問題と将来の社会状況」でした。基本的に事例研修を中心に行い、普段の業務の中で起こった難しい事務や珍しい事務の事例を発表し、職員間で共有しています。また諸課題の改善策と検討をテーマに、いくつかの問題点や課題をピックアップして、それについて検討し改善策を発表することで全職員のレベルアップを図っています。

共同実施は原則月2回の開催とし、拠点交に執務室を置かず、教育委員会に一室をかりて9名全員がそこで作業を行うという県内でも珍しい形態です。主な業務としては、給与手当の認定や相互自主点検、広報活動を中心に行っています。

このように研修会や共同実施を通して、普段から職務について勉強しながら伊仙町事務職員研修会は活動しています。今年度もよろしくお祈りします。



大和村事務職員会 大和村立大棚小学校 加藤真吾

いつもおつかれさまです。大和村事務職員会です。

大和村には、小学校4校、中学校1校、計5校の学校があります。事務職員会の構成は、ベテラン1人、新規採用職員1人、期限付事務職員（ベテラン）1人の計3人です。年代はバラバラですが、それぞれが協力し合い、日々大和村を良くしようとしています。

今年度は、「学校事務支援室活動の充実」という研修テーマをもとに、月に2回拠点校である大棚小学校で半日開催で研修に取り組んでいます。

業務内容としては、「諸手当認定事務」、「給与・旅費村費事務」、「広報活動」、「共同実施対象となる事務に関する研究」という主なものをはじめ、持ち寄りの事例研修等を行っています。広報誌は、隔月に配付するようにしています。そこから誕生したマスコットキャラクター『すももちゃん』は、村内教職員の方にとっても気に入られています。（おそろいのポロシャツもあります・・・）

また、相互自主検査では、1日行程で、事務職員3人が各小・中学校に行き、資料チェックをしています。その際に、校長先生や教頭先生の都合が良ければ参加していただいています。

現在特に力を入れているものは、H24年度から廃校になった戸円小中学校の備品移管についてです。流れとしては、共同実施で戸円小中学校に行き、各学校で欲しいようなものを、同行していただいた大和村教育委員会の方に写真を撮ってもらい、後日まとめたものを各学校に配付していただきました。そして、各学校で欲しい順番を付けていただき、それを元に、共同実施で戸円小中学校の備品を各学校に振り分けました。

今後の予定としましては、写真と備品台帳を見比べても、備品かどうかわからないものがいくつかあったため、運ぶ際にチェックして行く予定です。

また、教育委員会の方にトラックを出していただき、共同実施として各学校に持って行こうと考えています。事務職員会としては、もう少し早くに取りかかっていれば良かったと反省しています。

3人という少ない人数ですが、他の市町村に負けなように、また、他の市町村の方々と協力しあってよりよい環境にできたらいいなと思っています。大和村事務職員会を引き続きよろしくお祈りします。



龍郷町事務職員部会 龍郷町立龍瀬小学校 上崎暁人

みなさんこんにちは。龍郷町事務職員部会です。

龍郷町は奄美大島の北部に位置し、東シナ海と太平洋に囲まれています。きれいな海に加え、奄美の貴重な動植物に触れ合える「自然観察の森」もあり、大自然を満喫できます。

また、大島紬の代表的な銘柄でもある「龍郷柄・秋名バラ」は本町が発祥と言われている他、平家伝説や西郷隆盛翁が暮らしていた「西郷南州謫居跡」等、伝統文化が息づく歴史とロマンの町です。これらの特色ある環境を生かして子ども博物学講座を開催する等、教育熱心な町です。

さて、今年度は2名の男性新規採用者と1名の女性職員を迎え、男性5名女性3名でのスタートとなりました。昨年度までは女性職員の方が多かったのですが、形勢逆転しました（決して仲が悪かったわけではありません）。共同実施は昨年度の10月から始まり1年が経過しました。新採事務支援の他、給与データ報告書や旅費請求書の相互確認、輪番表に基づいた自主検査を行う等、相互確認体制の確立に努めています。また、今年度は教科書事務の研究、職員向けリーフレットや支援室HP、財務事務取扱要綱の作成、学期3回の支援室便りの発行等に力を入れています。

そして何より、合同管外研修の計画や意見交換会（用務地は屋仁川または天文館）の開催等、他地区との連携・交流も大事にしております。今後も龍郷町事務職員部会を宜しく願います。



奄美市笠利地区学校事務支援室 室長 鳥越正人

名瀬から龍郷町赤尾木三叉路を空港方向へ進むとすぐに笠利町になります。用安海岸（ばしゃやま村近辺）の美しい海岸を眺めつつ進むと土浜海岸が現れます。道路の高台から眺めるこの海岸は絶景です。奄美パーク・奄美空港を過ぎると観光名所あやまる岬があります。35年前新採の時、平山君と彼方の喜界島を眺めたよね。更に進むと用海岸のきれいな砂浜が続きます。笠利崎灯台から南へ下ると佐仁・屋仁・赤木名・喜瀬の太平洋側とは趣の異なる海岸を楽しむことができます。ちょっと行くともう先ほどの赤尾木交差点です。1時間もあれば一周することができます。

笠利支援室は10校7名で構成しています。月3回、第1から第3水曜日午後を基本に執務室のある赤木名中学校で業務を行っています。前月の最終支援室で翌月の日程を調整し開催公文を出しています。学校の行事と重なったとか子どもの授業参観があるとかで開催日を前後にずらしたり午前開催にしたりと変更は柔軟に行っています。

認定事務はスムーズに行えるよういろいろと工夫しています。（様式等の統一、事務の流れの定式化、チェック表の利用など）また年度途中の認定で急ぐものがあれば臨時に支援室を開催したり、持ち回り決裁をしたりしています。

年間を通して各学校へ行き相互自主検査を行っています。全校少なくとも1回は行きます。監査などに当たった場合は臨時に複数回行きます。事務職員同士の相互支援というのが目的ですので単なる県費のみの検査で終わらせないようにしています。検査の様子を見ていると、こういうのが得意な人のいることがわかります。笠利中八尋さんと赤木名中一野さんが（私はこの二人を一八（いちはち）コンビと呼んでいます）旅費関係書類を検査すると思わぬ間違いを探し出してくれます。宇宿小山下君が認定関係書類を検査すると「なんでそんなしょうも無いことまで気づくんだよ」と思うくらい細かくチェックしてくれます。

教員諸氏が「事務職員がしょっちゅう集まって何してるんだろう」などと疑念を抱かないよう、支援室アピールが欠かせない業務だと思っています。そのための一方法として広報を出しまくるのが効果的であると考えます。それもA4用紙1枚とか学期ごとに出すとか半端なものではなくA3両面で毎月あるいは隔月で発行しています。大半の人はまともに見てもいないでしょうが、少数の「興味を持って見てくれる」人がいればそれでいいと思っています。私たちだっているんなパンフ・広報紙・便りをまともに見ないことは多いしね。笠利の広報紙「シャリバ」を見てみたい、評価してみたいという方がおられましたらご連絡ください。ファイルをお送りします。ただし必ず感想・意見を返してくださいね。

10月9日～10日に霧島市・始良市・県事協報告会と管外研修に行ってきました。始良市や鹿児島市などのように大きい規模の学校だけの支援室は大変だなあと感じます。ですから、そのような支援室ではいろいろやろうと考えずに認定・相互自主検査くらいに特化して業務を行った方がよいのではないかと思います。それに比べると笠利の場合は、小規模校のみ7名の集まりですからいろいろとやりたいことがやれていいなあと思っています。（そう思っているのは室長だけかもしれませんが）



<平成26年度新規採用者より>

伊仙町立喜念小学校 上村 玲那

4月に新規採用として喜念小学校に赴任して半年以上が経ちました。初めての1人暮らし、徳之島に同期が1人もいないということがとても寂しかったことを思い出します。

学校現場では、何をすればいいのかが全く分からず戸惑ってばかりで先生方にご迷惑をかけてしまいました。そんなときに、近隣の先輩職員方が駆けつけてくれ1つ1つ丁寧に教えて頂きました。4月という忙しい時期に丁寧に教えてくださった先輩方と海を越えて互いに相談できる5人の同期には感謝の気持ちでいっぱいです。また、年末調整で先輩方にご迷惑をかけてしまうと思いますが何卒よろしくお願いします。

ところで、私が赴任した喜念小学校は、全校生徒32人（4学級）の小規模校です。そのため、事務職員の私でも児童1人1人の名前と性格等が分かります。私が学生だったとき、事務職員との接点は、こんなにはありませんでした。だからこそ、喜念小学校に赴任し全児童と関わりを持って嬉しい気持ちでいっぱいです。この気持ちを忘れずにあと半年の「1年目」を頑張っていくのと同時に、「2年目」の意識を少しずつ持ち始めていきたいです。

伊仙町立伊仙小学校 幸 綾子

私は、今年の6月から産休・育休代替として、伊仙町立伊仙小学校で採用されました。

それまでの2年間は、観光に携わる仕事をしてきたため、全く違う分野での仕事に戸惑うことが多々ありました。また、知らない言葉も多くどんどん不安になっていったことを覚えています。最初の頃は「何が分からないのかが分からない」「何をどうしていいのかが分からない」「質問しても言葉の意味が分からない」等、すべてが分からないという数日間を過ごしました。ですが、共同実施や事務職員研修会等を通して周りの先生方に優しく丁寧に教えていただき、少しずつ分からないことが理解できるようになり、最近はやりがいを見つけられるようになりました。私の初歩的すぎる質問にも優しく答えてくださった周りの先生方には感謝でいっぱいです!!

学校では、子どもたちの元気なあいさつで気持ちよく1日が始められ、昼休み時間におにごっこをしたり、話をしたりと楽しく過ごしています。素直な子どもたちの無邪気な笑顔に癒され、幸せだと思ふ毎日です。

事務職員になり、あっという間に5か月が過ぎました。仕事には慣れましたが、まだまだ知識不足なので、今後さらに努力をしていこうと思います。伊仙小学校で過ごす時間を大切に楽しく充実した時間にしていきたいと思っています。



龍郷町立龍郷小学校 竹ノ内 義隆

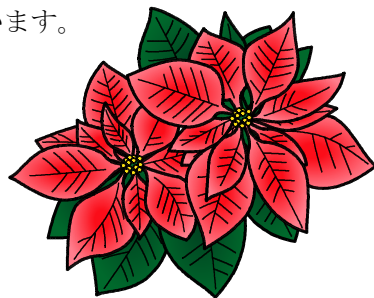
朝夕すっかり寒くなり、秋らしさを感じるようになってきました。本校でも大運動会が終わり、今度は、島口大会の練習をする児童の元気な声が飛び交っており、子どもたちの成長に携わることのできる環境に幸せを感じながら仕事をする毎日です。

気がつけば、採用されてから半年以上経とうとしています。振り返ると、採用されたばかりの頃は本当に何もできず、給料日には自分なんかを受け取っていいのだろうかと思し訳なく思ったのを覚えています。今でこそ基本的な業務なら一人で出来るようになりましたが、それもひとえに前任の先生や、近くの学校の先輩方のおかげだと思っています。忙しい時期でも、自分の仕事がある時でも優しく丁寧に教えてくださり、旅費の請求の仕方から、ちょうど良い濃さの水割りの作り方で、数多くのことを教わりました。

今後も、分からないことや初めてする仕事などがでてくると思いますが、一つ一つ勉強して正確に処理し、色々な事例に触れて、それを自分の糧として成長していきたいと思っています。

龍郷町立円小学校 樺山 修一

本校は、全校児童9名ととても少なくまた、新入生がおらず、年度初めの入学式が行われずとても驚いたことを覚えています。4月に新規採用で奄美大島に赴任してきて仕事もなかなか覚えられず、休日にも何をして過ごせばいいのかが分からない毎日でした。しかし、半年が過ぎて仕事も4月当初よりも慣れ、事務仕事以外にも、すのこづくりやビニールハウスづくりなどの大工仕事もできるようになりました。休日は龍郷町事務職員の先輩方から教わった釣りや趣味である卓球・バドミントンをして楽しい毎日を過ごしています。これからも自分のやるべき仕事をしっかりと行い、日々成長できるように頑張っていきたいと思っています。



○編集後記○

今年度から、年末調整の報告書を給与データシステムで行うようになりました。入力が正しいか、支給明細書を見るまでは、不安ですが。

次号は、来年2月発行予定です。編集を奄美市笠利ブロック、原稿担当を①徳之島町②喜界町③与論町④奄美市市用ブロックにお願いします。

今年もあと少し。ちょっと長めの年末年始休暇なので、少しでも、リフレッシュできますように。個人原稿は、伊津部小学校・藤崎までお願いします。

メールアドレス：itsubu-e@city.amami.lg.jp

(エルビー)